

ないことにしているが、返事をしないことに一種の抵抗を感じて、おれながら愉快でない、ついに退散ということになる。なぜ彼等は黙って客の選択に任せてくれないのだろうか。なぜ相談を受けてから寄って来ないのだろうか。売らんかなのテクニクか純粹な親切か知らぬが、私にはうるさい。おちついて選択ができないからである。

次に宿屋、これについては最近の体験がある。さきごろ京都の宿に一泊した。初めて土地では宿の選択がおっくうなのだが、土地の先輩を紹介してもらったのである。その点は気懸だった。先輩の話では、土建屋さんの妻君が内職みたいにとやっていると、愛想はないが気のおけないのが取り柄だとのこと、正に私の注文どおりなのだ。宿については夜の九時頃でもあったろうか、電話が入れてあったので、なんの滞りもなかったが、玄関に迎えたのも、翌朝送り出したのも当番の女中一人で、紹介さんは土地の名士なのに女将は一さい顔もみせない、かといって冷淡なわけではなく、部屋もちゃんと用意して、いきなり茶を運ぶお菓子を運ぶ、お風呂の支度を告げる、必要最少限度のサービスはちゃんとしているのだ。

どうかすると、女中やおかみやができてこっちの寝れもかまわず土地の名所案内をやったり、明日の予定をきいたり、いわゆる過剰サービスをやる。ききたけりやこちが訊くといいたいのが、気の毒でそれもいえない。益々うるさいのである。

初春におもよう

松井閑花

新しい年を迎えて、新しい感情が甦えるのは、幾つになっても同じ事である。過去一年の間に東京オリビックを始め、世の中ではいろいろな事があった。私もいろいろな能を舞ったが余り印象に残っていない。どうもマンネリズムに陥りがちであった様で大いに反省しなければならぬ。

最近はずいぶん程能は盛んになって来た。しかし、これも本当の意味で盛んなのか疑問の点が多い。能の会をやっても新しい年を迎えて、新しい感情が甦えるのは、幾つになっても同じ事である。過去一年の間に東京オリビックを始め、世の中ではいろいろな事があった。私もいろいろな能を舞ったが余り印象に残っていない。どうもマンネリズムに陥りがちであった様で大いに反省しなければならぬ。

私がここに能楽発展の為に切望する事は、その様な謡や仕舞の稽古と全然関係のない人々に能を見せたいと思ふのである。そして、あらゆる角度から、あらゆる流儀の能を見せたいと思ふのである。同じ曲目でも流儀により演者によって、その主張はそれぞれ異なるものであり、そこに能に限らず芸術の面白さがあるのである。能の見方も文学的にも絵画的にも、その他様々、学問的、芸術的な見方も、それは各人の自由なのであるから、その様な方々が多数能楽を見て貰ってこそ、次の世代を考える時、本当に意味のある事ではないかと思ふ。能という芸術そのものが民衆の中から身を興し、様々な曲折を経て六百年もの水い歳月を生きぬいて来たのであるから、日本人である以上誰しも親しみ得る要素がある事は勿論である。

能と云へば、始めから難かしい堅苦しいものと決めつけられる。所謂、喰わず嫌いが多いのではなからうかと思ふ。ここで何とか、あらゆる方々に日本の輝かしい伝統ある芸術を再認識して貰いたいと思ふ。高度の芸術になればなる程、心と心が触れ合つてはじめて感じるものであって、「わかりにくい」とか「わからなかった」とか云う事はなくして、心の目で見て、感じる事であらうと思ふ。見る人の目がなければ冷たくはね返してしまうであらうし、一旦中に入り得た人には、無表情に見える能面も様々

八代に定住して三度目の正月を迎える。当初耳ついでにお国なまりも今では気にならなくなった。山紫水明、風光明媚、気候は好し、食物も豊か、人情は厚い、実に住みよいかと思ふ。八代だけでは無い。熊本県下を見回しても同様のことが言える。にもかかわらず年々県内人口が減っていくのは一体どうしたことか。このままでいいたら先行どうなることか心細い感じがする。日本の中心から遠く離れているためなのだろうか。とくに、昨秋のオリビック東京開催をめぐって、総ての施設が東京を中心に考えられた結果なのだろうか。

新産業都市の前途

大宮二郎

八代に定住して三度目の正月を迎える。当初耳ついでにお国なまりも今では気にならなくなった。山紫水明、風光明媚、気候は好し、食物も豊か、人情は厚い、実に住みよいかと思ふ。八代だけでは無い。熊本県下を見回しても同様のことが言える。にもかかわらず年々県内人口が減っていくのは一体どうしたことか。このままでいいたら先行どうなることか心細い感じがする。日本の中心から遠く離れているためなのだろうか。とくに、昨秋のオリビック東京開催をめぐって、総ての施設が東京を中心に考えられた結果なのだろうか。

第三にはバスガイドだ。時たま熊本から快速バスで阿蘇へ行くが、市街を出はすれる頃からガイド嬢の説明が始まるとういけない、いわゆる耳についた蚊のごとく「えんえん」として尽きない沿線の案内には、全くうんざりしてしまう。「そんなこと知ってるよ」「いっつき黙ってくれ」

と口元まで出かかる不平をかみしめる幸さ。だが、これは省みて自分の方に罪がある、というのは乗客中の何人か、全員のエトドランゼで、そうしたガイドにも耳傾けているかも知れないからだし。しかし、それならそれで、なぜ特別仕立ての遊覧バスだけにどめぬい、大多数は土地者に違いないのに。

京都で遊覧バスにのった私は、手とり早い見物にはこれが一番だと改めて思ったし、バスガイドにもある程度共通はもったので、更にその感を探る。サービス業という業種があるほどで、サービスは大切な商賣道にちがいない、特に無愛想指摘されがちな熊本などは、大いに奨励して然るべきだが、それにはそれで、洗練されたサービス術があるはず、徒らなサービス過剰は、遊覧以外の何物でもあるまい。

と、ここまで書いてきて、もしかしたら、私などが特別な偏屈もので、大多数の人は、そうしたサービス過剰も、決して苦にならないどころか、もともと、と思つていかも知れないと気がついたので。借問す、果して如何。(郷土雑誌「呼ぶ」主宰)

みて、何処の会でも見物に来る方々は謡を習い、或は仕舞や囃子を稽古している人がその大多数を占めている。これは近頃、謡や仕舞を稽古する人が増えた云う事の裏書きにはなつて、これも能楽発展の為に、勿論大切な事では無いのであつて、その様な方々が能を見、謡を聞かれるのは、自分の稽古の足しとされる事で、むしろ当り前の事である。そしてその様な方々は夫れで自分の限られた流儀の能しか見ようと思わない人達である。

な感情を語りかけ、無限の喜びを得られるであらう。又能には神、鬼、幽霊、草木の精といった様な現実人間以外の登場人物が多く、無装置に近い能舞台で展開される様な「山」は、「山」或は「日影」と舞台いっぱいに入々に幻想力を与えるのである。所謂、演ずる者の力によって空間に何もかが生かせる云う芸術の特徴がこのに生かされてくる。舞台で動かせないに居ながら人の心を引きつけて、飽かせないという事は、これこそ大変な精神の緊張を要する事である。少しでも動揺しようものなら、忽ち見る人を退屈させてしまふであらう。反面、見る人の緊張も大切である事は申す迄もない。

例えば、道成寺の舞台の様に、激しい動きをみせる「鬼の舞」から「鏡入り」の瞬間も、外観とは別に心は静で、むしろその前の静に立って居る「乱拍子」の方が心は激しく動いているものもある。能舞台では演者の心は最も動かすに在る時緊張し、又最も激しく動いている時であり、反面激しい動きを見せる時程最も冷静を保っている時である。そうして演じる者、見る者の気持が一体となつて融合した時に初めて能という芸術が舞台の空間に生れるであらう。

近くの青々とした表裏と、紫雲の棚引と、暁の空を眺めながら考へる時、私も今年こそは始めから、出直す積りでやってみようと思ふ。(八代市 能楽師)

持を、この国際的行事に集中散放した。あと何日でオリビック開催、世紀の祭典を成功させようという盛り上がる国民感情から、一兆円を超える巨額な資金を東京を中心に投入した。来訪した人々は、競技の内容もさることながら、その施設の完備と組織運営の妙を絶賛している。

その反面地方の開発が遅れたとも言える。一千万人を越える巨大都市圏が出現し、住宅難、交通地獄、水飢饉等々の憂々々々現象を呈している。一方、地方の開発は遅々として進まず、優秀な若手労働力は流出して、格差はますます大きくなるうとして、一昨年、池田内閣の重要政策として決定